

診断の難しい患者さんを救いたい

プライマリな診療と連携体制の強化で、

武田総合病院 副院長  
総合診療科部長・臨床研修部部長  
内分泌センター/内分泌内科部長  
糖尿病 専門医

中前 恵一郎  
KEIICHIRO NAKAMAE



患者さんを救うため、  
地域の先生と連携しやすい体制をつくる

以前はせっかくご紹介頂いた患者さんでも長い待ち時間が発生することがありました。そこで、5年前に外来運営委員会に参加し、現在まで外来運営システムをより良くしていく取組みを進めています。当初は外来予約枠に1時間で10名以上押し込められていたり、そもそも予約枠のない診療科があったり、採血待ちが集中して朝は2時間待ちが当たり前みたいなことが多くありましたが、予約枠や診療体制の最適化を図り、待ち時間を中心とする患者満足度を大きく改善させることができました。



2022年1月からは当院は地域医療支援病院になり、軽症患者さんを積極的にかかりつけ医の先生方に逆紹介を行うことで、十分な紹介患者さんを迅速に受け入れる体制が整ってきました。この10月からは紹介患者さん専用の予約枠も作成し、より多くの紹介患者さんを受け入れるようにしております。

また、私の専門の一つである糖尿病領域では、肥満症をはじめ、心疾患や慢性腎臓病に対する新しい治療薬が数多く出てきています。検査診断技術も進んでおり、簡単な非造影CT検査で冠動脈病変のリスクが分かるようになり、脳心血管や下肢血管などの動脈硬化性疾患の評価や予防を進める体制がこれまで以上に整ってまいりました。そして、新しい薬剤により肥満患者さんの体重のコントロールにも対応できるようになりました。ご相談いただければ、必要な検査や集学的な治療を行い、地域の先生にお返しできると思います。長年、クリニックに通院して安定している患者さんでも、年に一度、合併症検索でご紹介いただければ幸いです。

ポストコロナ禍や少子高齢化で医療制度が大きく変革しています。当院はデジタル化や医療連携を進め、地域の先生方と協力して地域医療を支えたいと考えております。お困りの際は気軽にご紹介ください。

患者サポートセンターだより

地域医療連携 特集

November.2024

医療法人 医仁会  
武田総合病院

〒601-1495 京都市伏見区石田森南町28-1  
TEL 075-572-6331(代表)

医療法人 医仁会  
武田総合病院

病院HPはこちら



患者サポートセンター

TEL 0120-72-6530(フリーダイヤル)

TEL 075-572-6530(直通)

FAX 075-572-6276(直通)

受付時間 平日 8:30~19:00

※土曜17:00まで ※日祝、年末年始を除く

# 患者さん1人1人の人生をビジュアル化し、原因を探る

武田総合病院 副院長  
総合診療科部長・臨床研修部部長  
内分泌センター/内分泌内科部長  
糖尿病 専門医

中前 恵一郎

当院総合診療科は、1993年に当院が臨床研修病院の指定を京都の私立病院としては初めて受けたことをきっかけに、1994年にそれまで内科あるいは一般内科と呼ばれていた診療科を、故半田肇名誉院長（当時院長）のご意見により総合診療科と改名し、井上雅史先生（現在、井上医院院長）を初代部長として発足いたしました。その後、2003年4月より桂田達也先生、次いで2004年4月より大野仁嗣先生が部長をされました。その後2007年4月より土井哲也先生（現在、康生会武田病院副院長）が2024年3月まで部長をされて、当院総合診療科の発展に大きくご尽力くださり、2024年4月から私が引き継がせていただいております。

地域の先生方から総合診療科にご紹介いただく患者さんは、原因不明の体重減少や発熱をはじめ、愁訴が複雑で何科にお願いしたらいいかわからないというような方が多くいらっしゃいます。当科では、まず患者さんの訴えをしっかりと聴き、身体症状の変化、必要なときは心理的要素、社会的背景、職場や家庭の問題まで掘り下げて、症状の原因を探ります。多くは問診と身体診察だけでいくつかの病名が推測でき、そこから診断のために検査を追加し、場合によっては診断的治療を行い、必要があれば専門医につなぎます。

非典型的な症状を訴える患者さんを診るには、ある程度の数の疾患を想定して鑑別ポイントを探らないと、なかなか診断にたどり着けません。疾患名がすぐに想起できない場合には、まずは感染症や悪性腫瘍、自己免疫疾患などの疾患領域別に考えるようにし、それぞれに関連する自覚症状や他覚所見の有無を確認し、どのような疾患領域が近いのか絞り込んでいきます。

疾患の増悪因子や緩解因子、そして心理的・社会的な要因の影響を考える際には、患者さん1人1人の生活を頭の中でビジュアル化するように聞き取っていくと、疾患の原因が見えてくる場合があります。患者さんには、自分の思考内容を初回よりそのまま分かりやすくお伝えすると、信頼関係が得られ、検査や治療に協力的になっていただけます。

## 広い視野で全人的に 診る総合診療科へ

私は幼いころから小児喘息を患っており、よく夜間に救急受診をしていました。そこで触れた医師・医療職の方々に憧れて、小学生のころから医師を目指すようになりました。

大学4年生の頃から臨床研修病院での研修に興味を持ち、卒後は虎ノ門病院の内科レジデントとして研修しました。当時はまだ臨床研修が義務化されておらず、卒業生の9割は最初から一つの診療科に就職する時代でした。私の研修時は、内科系を1年6カ月、さらに外科と麻酔科をそれぞれ3カ月ずつで合計2年間の臨床研修を行いました。

私が武田総合病院に入職したのは2009年です。専門である糖尿病診療も続けながら、学問的な興味があり総合診療科に入りました。医師になったスタート時点から広い視野で全人的に診るスタイルを意識してきたので、このことが現在の総合診療科医としてのスタンスにつながってきたのだと感じています。

## 丁寧なやり取りで 地域の先生との 信頼関係を築きたい

患者さんをご紹介いただいた地域の先生への返書は、丁寧に記載することを心がけています。初期診断として考えられる鑑別診断の病名、鑑別するためのプランを紹介して、次にとどの段階で返書をするか、私自身の思考過程を2〜3枚で伝えています。

紹介状と返書のやりとりは、お互いの学びあいという一面があると感じています。繰り返しご紹介状をいただけることは、頼りにしていただけるといふプラス評価だと考えています。

紹介元の先生方のお気持ちを考え、安心して患者さんをご紹介いただけるような信頼関係を築いていければと考えております。



インタビュー全文はこちら

